

新たな6次産業の創造へ 果敢に挑戦!

—3月25日 小谷城スマートインターチェンジオープン—

インター名称に「城」が使われるのは、全国初!!



小谷城スマートインターチェンジの概要

路線名	北陸自動車道
連結位置	湖北町山脇・小谷丁野地先
接続道路	福井方面：一般県道郷野湖北線 米原方面：一般県道丁野虎姫長浜線
形式	本線直結型フルランプ形式
利用可能車種	ETC車載器を搭載した全車種
計画交通量	2,000台/1日
全体事業費	約32億円

長浜市がめざす 新6次産業化とは

懇話会では、拠点整備の理念を「先人が築き上げた湖北の「農」を、次の世代・産業へと繋ぐ」としてまとめ、現在皆さんの健康な生活実現などのための拠点整備について議論しています。湖北地域の基幹産業である農業を活性化させることは大きな課題であり、産業を守り育てるためには、農林漁業者の所得を確保することが必要です。その仕組みの一つとして提唱されているのが「6次産業化」です。

長浜市がめざすのは、農・商・工が連携し、市の強みであるバイオ技術・産業を最大限に活かす「**まち全体で取り組む、新6次産業化**」です。

小谷城SIC周辺6次産業化拠点構想の方向性

誰もが理想とする「健康的なライフスタイル」のもととなるのは「食」。それを生み出すのは「農」です。小谷城SICの利便性を生かしてその周辺に、市内産の農林水産物を50%以上扱う6次産業化拠点施設を整備し、



「6次産業化」

農林漁業の従事者（1次産業）が、生産物の付加価値を生み出すために、農畜産・水産物の製造だけでなく、食品加工（2次産業）や、流通・販売（3次産業）などの産業へ挑戦・参入し、農山漁村の経済を豊かにしようという考え方です。

- 市内産物の生産、活用を促進します。安全・安心なバイオ技術や湖北の美しい景観、歴史の重みを感じる風土、環境に優しい市民意識を生かしたアグリビジネス産業が集積する「健康的なライフスタイル」を支え、リードする地域・産業拠点」をめざします。
- 拠点施設に必要な機能**
- ① 作る（生産拠点機能）
バイオ技術も活用しつつ、食生活や暮らしの面で健康増進に寄与する農林水産物の生産増強を図る。
 - ② 高める（価値創造機能）
市内で生産された農林水産物を集積して付加価値を高め、廃棄を減らす。
 - ③ 商う（物流拠点機能）
小谷城SICの利便性を活かして、市産の商品とそれを求める顧客を呼び込み、商流を創り出す。
 - ④ 交わる（人材交流機能）
小谷城SICの来訪者を市内各所に誘導し、観光・交流を促す。



3月25日、いよいよ小谷城スマートインターチェンジ（小谷城SIC）が開通します。

市内にインターチェンジが設置されるのは、昭和55年に長浜と木之本に設置されて以来、実に37年ぶり。十数年におよぶ要望活動などが実った市民待望の開通です。

開通により、利便性の向上はもちろん、観光・産業振興、救急・医療体制の強化、災害時の新たな避難経路の確保、地域間の交流促進・連携強化などの効果が期待されます。

計画地周辺の活性化策では、大型商業施設や大型物流拠点の誘致による地域振興などを幅広く検討しましたが、周辺の商圏人口が小さいこと、周辺が優良な農地であることなどから、「農業」を軸に地域の農林水産物を有効活用し新しい産業やサービスを生み出す拠点づくりに取り組むことになりました。

この具現化に向け、「小谷城SIC周辺6次産業化拠点構想懇話会」を設置し、議論を重ねています。この特集では事業化に向けた検討状況をお伝えします。

- ⑤ 広める（情報発信機能）
健康志向で先進的な長浜スタイルを発信して、来訪者を増やす。
- ⑥ 育む（人材育成機能）
市内外からアグリビジネスの担い手を呼び込んで、育成する。